

名張市スポーツ推進計画

2016（平成28）年度
～2025（令和7）年度

2019（平成31）年4月改訂

（2016（平成28）年4月策定）

名張市教育委員会

はじめに

名張市では、市民だれもが生涯を通じて気軽にスポーツを楽しむことができる豊かな生涯スポーツ社会の実現を目指し、スポーツ振興の施策に取り組んできました。しかし、人口減少や高齢化社会の急速な進行、社会情勢の変化や市民ニーズの多様化によりスポーツをめぐる状況は大きく変化するとともに、スポーツの果たす社会的役割の重要性も高まり、新たな取組が必要となってきました。国においては、1961（昭和36）年制定の「スポーツ振興法」を全部改正し、スポーツ立国の実現を目指し、2011（平成23）年6月に「スポーツ基本法」が制定され、地方公共団体の自主的な施策の推進が責務であることが規定されました。

こうしたことを受け、2014（平成26）年7月にスポーツ推進審議会の小委員会としてスポーツ振興懇話会を立ち上げ、「名張市におけるスポーツ振興のあり方」について提言書を提出していただきました。これを踏まえ、名張市総合計画「新・理想郷プラン」に示すスポーツ分野の推進施策を具体化する行動計画として、今後のスポーツ推進の4つの基本的方向性を示す「スポーツ推進計画」を策定しました。この計画では、10年後の目指すべき姿を明らかにするとともに、今後3年間で取り組むべき方策を示しています。

市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康ではつらつとした暮らしを営めることができるような環境をつくり上げることを基本目標とし、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組みます。

最後に本計画の策定に当たりご尽力いただきました名張市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、市民アンケート等において貴重な御意見や御提言をいただきました多くの皆様に、心からお礼を申し上げます。

名張市教育委員会
教育長 上 島 和 久

目 次

第1章 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け
- 3 計画期間

第2章 名張市のスポーツの現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・ 2～10

- 1 名張市の人口
- 2 スポーツ活動状況
- 3 市民スポーツアンケート

第3章 目標と取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11～18

- 1 基本目標
- 2 基本取組

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の趣旨

2011（平成23）年6月に国では新たにスポーツ基本法（平成23年法律第78号）を制定しました。

この法律では、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは全ての人々の権利であり、スポーツは、青少年の健全育成や、地域社会の再生、心身の健康の保持増進、社会・経済の活力の創造、我が国の国際的地位の向上など、多面にわたり大変重要な役割を担うとされています。

こうしたスポーツ基本法の理念の実現のためには、国をはじめ、地方公共団体、学校、スポーツ団体及びスポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に総合的かつ計画的に取り組んでいくことが重要であるとされています。

名張市においてもスポーツ基本法の目的を達成し、本市におけるスポーツの実態やニーズを踏まえたスポーツ施策の一層の推進を図るため名張市スポーツ推進計画〔2016（平成28）年度～2025（令和7）年度〕（以下「本計画」といいます。）を策定します。

2 計画の位置付け

本計画は、スポーツ基本法第10条第1項に基づくスポーツの推進に関する計画であり、名張市総合計画「新・理想郷プラン」に示すスポーツ分野の施策を具体化する行動計画として位置付けます。

3 計画期間

2004（平成16）年度から2015（平成27）年度までの「名張市スポーツ振興計画」の実績を踏まえながら、本計画では2016（平成28）年度から2025（令和7）年度までの10年間の方向性を明らかにするとともに、当初3年間の具体的な取組内容を示します。

第2章 名張市のスポーツの現状と課題

2004（平成16）年度に「名張市スポーツ振興計画」を策定し、生涯スポーツ社会の実現に向けて事業に取り組んできました。この10年間に総合型地域スポーツクラブの創設、競技力向上による多くの優秀選手及び指導者の輩出、総合体育館及び市民野球場の改修等を実施してきましたが、社会情勢の変化や市民ニーズの多様化により新たな取組が必要となっています。

1 名張市の人口

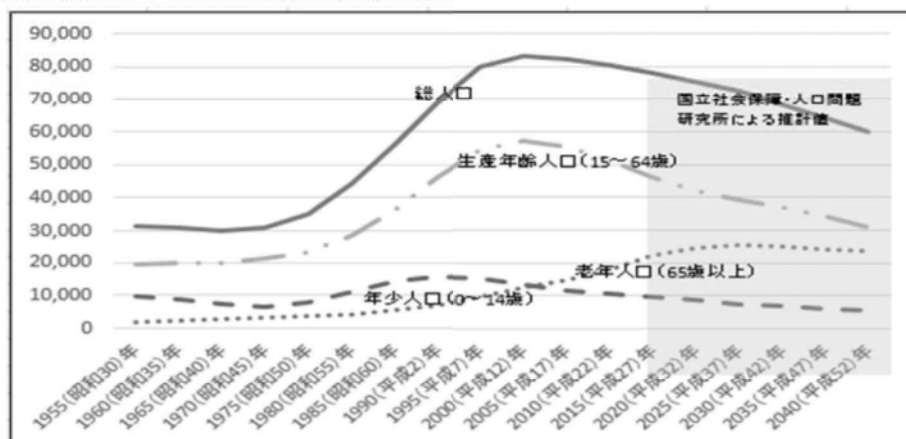
関西圏のベッドタウンとして、1965（昭和40）年代後半から急増した本市の人口は、2000（平成12）年の83,291人をピークに減少傾向をたどっています。近年の傾向で推移した場合、今後も人口は減少を続けるものと見込まれています。

また、人口の増加とともに増え続けていた世帯数は、人口増加のピークを過ぎた今もなお増え続けており、核家族化が更に進行しているものと考えられます。

老年人口は、総人口が減少を続ける中で今後もしばらくは増加傾向にありますが、2025（令和7）年辺りから減少すると推測されていますものの、これまでのように若者の転出による生産年齢人口の減少が続いた場合、全国平均の倍のスピードで高齢化が進むことが見込まれています。

《名張市の年齢階層別人口の見通し》

資料：2010（平成22）年までの実績値は国勢調査の値。2015（平成27）年以降の値は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本地域別将来推計人口」の値。



2 スポーツ活動状況

(1) スポーツ施設・学校体育施設の利用状況

本市の体育施設は、1977（昭和52）年に開設した中央公園の整備に合わせて各種体育施設の建設が進み、以来本市のスポーツの拠点として市民に親しまれてきました。

また、2006（平成18）年には武道交流館いきいきが建設され、新たな市民のスポーツ活動の拠点として多くの方々に利用されています。

一方、市内小中学校の体育施設においては、学校開放事業により夜間及び休日等における地域及び各種団体の活動場所として引き続き多くの方々に利用されています。

○総合体育館（HOS名張アリーナ）

（単位：人）

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
利用者数	68,064	59,287	75,874	※27,763	54,963	59,343	55,653	59,595

※H25は総合体育館耐震工事のため6か月間の閉館期間あり

○体育施設（武道交流館いきいき含む）

（単位：人）

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
利用者数	160,615	152,774	159,620	159,659	162,236	170,318	164,927	182,008

○学校体育施設

（単位：人）

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
利用者数	144,072	136,280	130,952	137,173	138,664	138,869	139,364	136,127

中央公園内の体育施設は築後35年以上が経過し、老朽化により機能が低下し、昨今の利用者のニーズの多様化・高度化に十分な対応ができていない状況となっています。

(2) スポーツイベント

本市では、競技スポーツを中心とした「市民総合体育大会」、レクリエーション種目を中心とした「レクスポフェア」、そしてこれら2つのスポーツイベントとともに、体育の日の関連行事として位置付けた「体育健康フェスタ」を市のスポーツイベントとし、多くの市民の参加により開催します。また、名張市体育施設や名張市武道交流館いきいきの各指定管理者においても、様々な工夫を凝らしたスポーツイベントを展開しています。これらの取組により近年は、健康志向の高まりから高齢者の参加が多くなっています。

○市民総合体育大会参加者推移

(単位：人)

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
体育協会	2,219	1,983	1,990	1,802	1,876	1,616	1,707	1,710
レクリエーション協会	828	842	946	666	960	746	998	704
計	3,047	2,825	2,936	2,468	2,836	2,362	2,705	2,414

※体育協会の競技種目の中で、参加チーム数しか把握できない種目があることから、競技構成人数で試算している。

○レクスポフェア参加者推移

(単位：人)

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	350	800	600	500	500	500	500	400

○体育健康フェスタの参加者推移

(単位：人)

年 度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)
参加者数	4,538	5,164	5,784	2,191	4,080	4,107	4,418	5,226

これらのスポーツイベントについては、市民の誰もが参加でき、楽しめる種目を準備しています。競技種目によっては、参加者が固定化、高齢化する傾向にあります。これらのイベントは日頃運動をしていない人への啓発も兼ねているにもかかわらず、新たな参加者が少なく、延べ参加人員は増えていますが、実参加人数については減少傾向にあります。

このことから、スポーツの日常化を図るきっかけになるような工夫など、イベントの活性化が課題となっています。

(3) 地域スポーツ

本市では、市民センターを基本的な単位とする15の地域で、住民の総意により設立された地域づくり組織がまちづくり活動を行っています。多くの地域では、地域づくり組織の主催による運動会などのスポーツ行事を実施され、交流・親睦を深めています。

しかし、地域によっては高齢化が進むとともに、子どもの数が減少し、地域の子供会がなくなるなど、スポーツ行事が成り立たなくなってきたところもでてきています。

このような状況の中で、地域のスポーツ活動をどのように活性化させていくのかが課題となっています。

(4) 総合型地域スポーツクラブ

生涯スポーツの推進と地域スポーツの普及を目的として、体育協会などが中心となり、なばり総合型地域スポーツクラブが2005（平成17）年3月に設立されましたが、会員数の減少等により2013（平成25）年3月に解散しました。

しかしながら、総合型地域スポーツクラブの役割が改めて見直され、新たなニーズに応えるため、2014（平成26）年度に「総合型地域スポーツクラブ創設支援指針」を策定し、総合型地域スポーツクラブの創設及び活動に対する支援を行っています。

（5）中高年の健康・体力づくり

人生90年時代を迎えています。できるだけ長く健康で充実した人生を送ることは誰しもの願いです。このため、近年、中高年層を中心にウォーキングや健康体操、ゲートボールやグラウンドゴルフなどを通して健康づくりが盛んに行われています。

日常的に健康づくりに取り組み、体力の維持向上を図ることは、健康で充実した人生を送るとともに、医療費の削減にもつながります。さらには、人と人との交流が少なくなる中で、スポーツや健康づくりを通じて仲間づくり、生きがいづくりを進めることは重要な施策であります。

ところが、現状はスポーツの普及と健康づくりを進める所管が別々に事業を推進しており、十分連携して事業実施しているとは言えない状況であることから、中高年の健康づくり・体力づくりをより効果的に進めていくための仕組みを検討していく必要があります。

（6）子どものスポーツの推進

①子どもの基礎体力

文部科学省が行っている「体力・運動能力調査」によると、子どもの体力・運動能力は、1985（昭和60）年頃から現在まで低下傾向が続いています。現在の子どもの結果をその親の世代である30年前と比較すると、ほとんどのテスト項目において、子どもの世代が親の世代を下回っています。一方、身長、体重など子どもの体格についても同様に比較すると、逆に親の世代を上回っています。

○身長・基礎的運動能力の比較

	男子		女子	
	親の世代	今の子ども達	親の世代	今の子ども達
身長 (cm)	143.2	145.4(2.2)	145.5	147.0(1.5)
50m走 (秒)	8.8	8.8(0.0)	9.0	9.1(△0.1)
ソフトボール投げ (m)	34.0	26.8(△7.2)	20.5	16.3(△4.2)

※親の世代は1985（昭和60）年度の11歳、今の子ども達は2017（平成29）年度の11歳

このように、体格が向上しているにもかかわらず、体力・運動能力が低下していることは、身体能力の低下が深刻な状況であることを示しています。子どもの体力の低下は、将来的には生活習慣病の増加やストレスに対する抵抗力の低下などを引き起こすことが懸念され、社会全体の活力が失われるという事態に発展しかねません。

子どもの体力、運動能力低下の要因については、少子化や集団での外遊びが減少していること等が指摘されています。子どもは、スポーツや外遊びによって体を動かす楽しさを知り、運動習慣を身に付けると同時に、メンタル面の成長や社会性など非常に多くのことを身に付けることができます。

本市には、子どもが継続的にスポーツをする場としてのスポーツ少年団や競技種目のスポーツクラブ等がありますが、近年、スポーツをする子どもとしない子どもの2極化が顕著になっています。

このような状況を改善するため、学校、家庭や地域が連携して、子どもが積極的に外遊びやスポーツ活動を行う機会や場を提供することが求められています。

②保育所（園）、幼稚園、学校との連携

本市では、就学前の神経系の発達が著しい年代において、遊びや様々なスポーツを通して、基本的な動きを体験することによって健全な成長を促すために、現在、保育所（園）や幼稚園

園で、外部講師を迎えてサッカー教室やスポーツ教室を実施しています。また、各小学校では、放課後や土曜日に、子どもが自由に遊びを通して体力づくりや仲間づくりを行う「放課後こども教室」や「放課後児童クラブ」が、地域の運営委員会の協力の下実施されています。また、中学校の部活動では外部講師などと協力して、技術力の向上に励んでいます。

しかしながら、保育所（園）や幼稚園への派遣指導者や中学校の教員など、指導者の高齢化や指導技術面での課題等もあることから、今後は、スポーツ関係団体等と一層連携を密にして地域で学校を支援するシステムづくりの検討が必要です。

3 市民スポーツアンケート

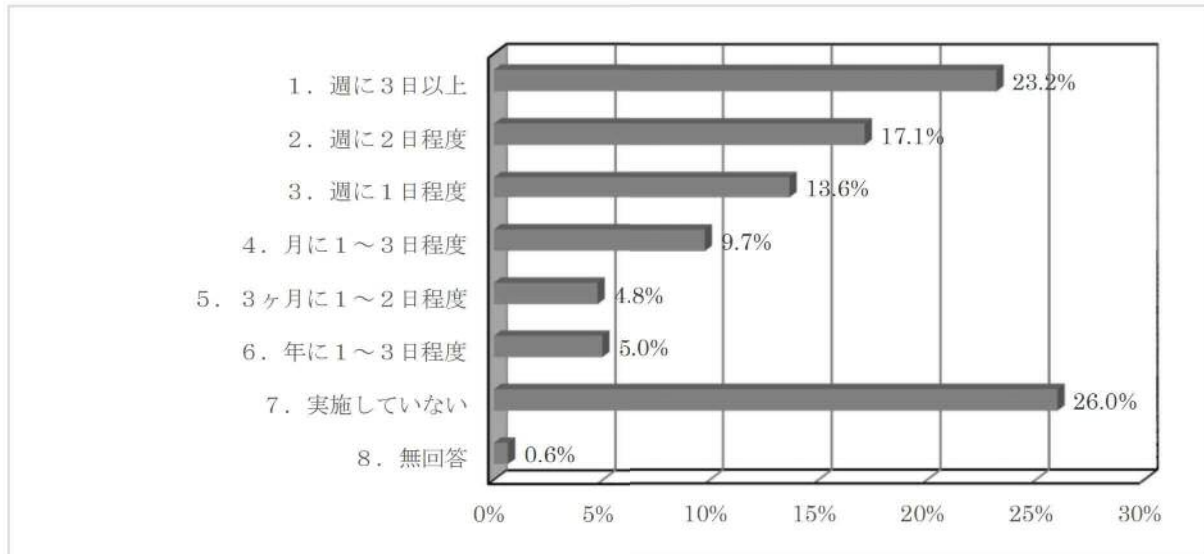
2015（平成27）年7月に、「名張市体育・スポーツに関するアンケート」（16歳以上の男女を無作為に抽出した1,134名を対象）を実施しました。（回答者461名、回答率40.7%）アンケート結果では、週に1回以上、30分以上スポーツをした人は、53.9%と全国平均（2012（平成24）年「体力・スポーツに関する世論調査」に基づく文部科学省推計）の47.5%を大きく上回っています。一方、スポーツをしていない人は26.0%で、スポーツをする人とならない人の2極化が見受けられます。特に60歳代が30%と1番多くなっています。

しなかった理由としては、「仕事が忙しく時間がないから」が最も多く、次に「機会がなかったから」の順で合計54.4%と半数以上の人が「スポーツをしなかった」という結果でした。

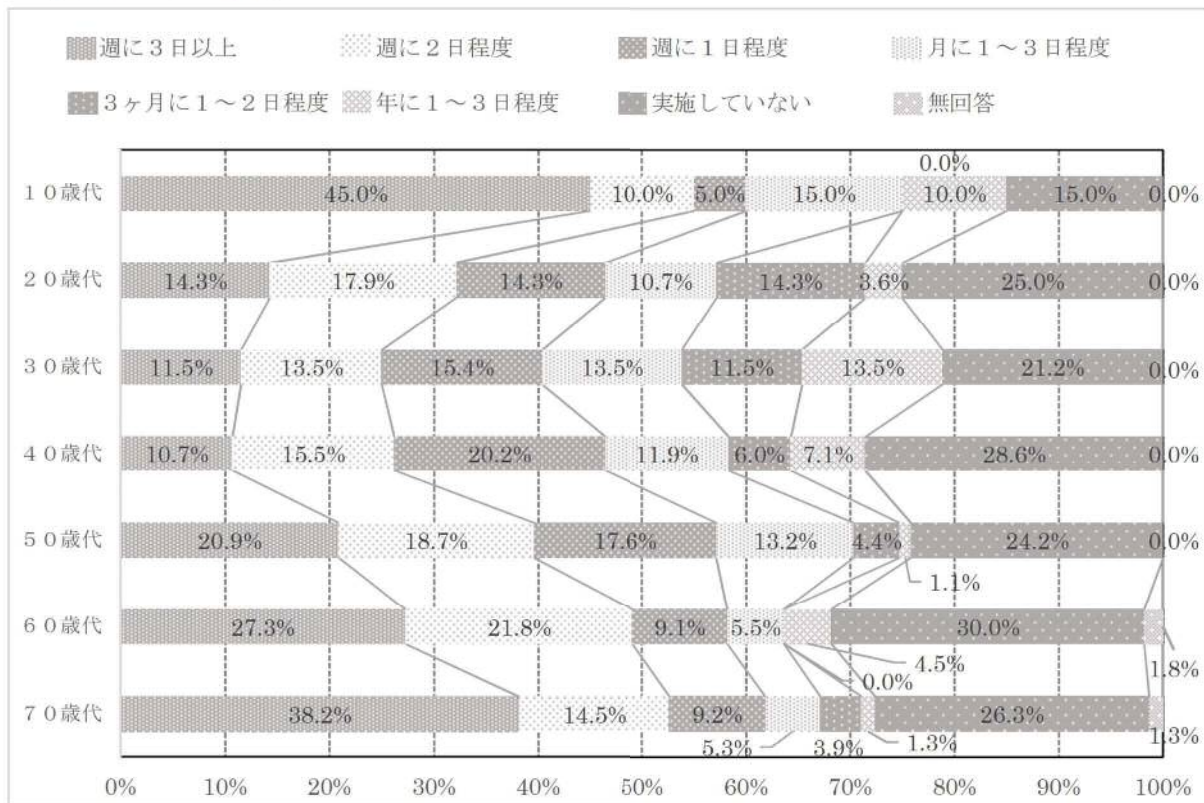
このことから、スポーツができる時間帯等を検討し、多くの市民がスポーツをする機会を提供することが必要となっています。

スポーツ種目に関しては、今後やってみたいスポーツとしてスイミングが最も多く、次にテニス、ゴルフの順で、個人で楽しむ競技が上位を占めています。一方、運動やスポーツをしない人が、やってみたいスポーツは、ウォーキングが最も多く、バトミントン、卓球、テニスの順で、手軽にできるスポーツに関心がある結果となっています。

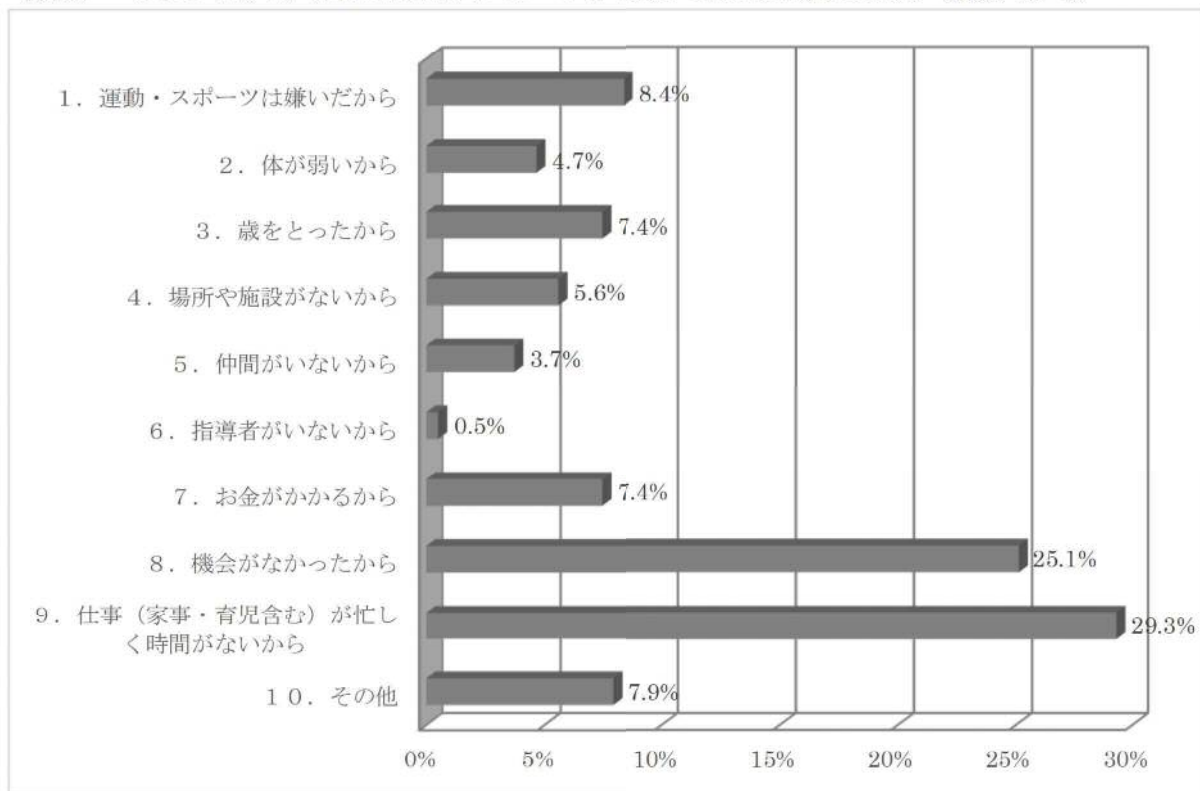
(設問) この1年間で、あなたが30分以上運動やスポーツを実施した頻度はどれくらいですか。



○年齢別の運動実施割合



(設問) この1年間で、あなたが運動やスポーツをしなかった理由は何ですか。(複数回答可)



第3章 目標と取組

1 基本目標

健康、体力づくりはもとより、スポーツ活動を通して得られる効果は多岐にわたり市民の日常生活においても大きな活力源となっています。

市民の誰もが、生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康ではつらつとした暮らしを営めることができるような環境をつくり上げるために、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現に向けて取り組めます。

基本目標を実現するため、(1) スポーツに親しむ環境づくり (2) 競技スポーツの推進 (3) 障害者スポーツの推進 (4) 学校体育・スポーツの充実の4つを基本方針として掲げ各種施策を計画的に取り組めます。

2 基本取組

(1) スポーツに親しむ環境づくり

①スポーツ活動の機会提供

いつでも、だれでも、いつまでも、スポーツに親しみ、継続して活動できる環境をつくるため、個々のニーズを把握し、それぞれのライフスタイルに応じた事業を展開します。

また、インターネット等を活用し、広く情報発信します。

[取組内容]

- ・これまでに実施してきたさまざまなスポーツイベント等の内容を再検討し、参加しやすい催しを企画します。
- ・ウォーキングやジョギングを取り入れるなど、名張ひなち湖紅葉マラソン大会や青蓮寺湖駅伝競走大会に、より多くの方々に参加いただけるよう事業の拡大を図ります。
- ・市民がわかりやすく、興味を持てるよう、また時代に応じた媒体を活用した情報発信を構築

します。

- ・健康寿命を延伸するために、健康とスポーツの連携を図るため、名張ケンコー！マイレージ制度を活用するなど、それぞれの特性を生かした事業を推進します。

②総合型地域スポーツクラブの創設及び充実

幼児から高齢者までの誰もが生涯を通じ、それぞれの体力や年齢、技術、興味に応じて、身近にスポーツ活動ができる拠点として、中心的な役割を担う総合型地域スポーツクラブの各地域での創設を推進するとともに、総合型地域スポーツクラブが自主自立を基本としながら、安定的なクラブ運営が行われるよう必要な支援を行います。

[取組内容]

- ・地域での活動を推進するため、スポーツ推進委員と一層連携を図りながら総合型地域スポーツクラブの創設に努めます。
- ・総合型地域スポーツクラブ間の情報交換、及び資質向上のため、連絡協議会を設立し、継続して活動できるための体制を構築します。
- ・総合型地域スポーツクラブ創設後、引き続き持続可能で安定したクラブ運営が図れるよう支援していきます。2018（平成30）年度においては、4つの総合型地域スポーツクラブがそれぞれの地域を中心に、様々な教室を通じ地域住民のスポーツ振興に寄与しています。あわせて新たな総合型地域スポーツクラブ設立に向けた地域への機運の向上と支援を進めていきます。

③シニアスポーツの充実

健康増進や体力の維持向上を図るとともに、仲間づくりや生きがいをスポーツを通して実現できるよう、シニアスポーツの充実を図ります。

[取組内容]

- ・シニア世代が気軽に参加できるニュースポーツなどの機会を提供します。

- ・健康増進に関するスポーツの効用をアピールするとともに、関係機関と連携し事業を推進します。

④指導者の養成・確保

スポーツ技術を習得するため、また、適切に指導できる指導者の資質向上を図るため、体育協会やレクリエーション協会と連携し、必要な取組を実施します。

[取組内容]

- ・指導者養成研修を定期的実施し、指導員の育成・資質向上に努めます。また、体育協会やレクリエーション協会が実施する公認指導者養成事業への参加促進・支援に取り組みます。
- ・スポーツリーダーバンク機能の充実を図るため、新たな仕組みをつくり、スポーツ活動に対しての派遣が容易になるシステム構築に努めます。
- ・2017（平成29）年度において、シニアスポーツ大学を開講し、高齢者が健康な生活を継続、維持するために地域のシニア世代のスポーツリーダーの養成を行いました。今後も引き続き、地域ごとに特色ある活動を行いながら全体として健康寿命を延ばすことにつながるシステム構築に努めます。

⑤体育施設の整備充実

老朽化が進む体育施設の機能の維持・向上と安全性の確保を図るとともに、利用者ニーズの変化に対応する体育施設の整備・改修に努めます。

また、2021（令和3）年に開催される三重とこわか国体（第76回国民体育大会）に向け開催競技会場の整備に取り組みます。

[取組内容]

- ・総合体育館のアリーナの安全確保に努めます。また、障害者にも使いやすい施設を目指します。
- ・メイハンフィールド（市民陸上競技場）は、2017（平成29）年4月にリニューアルし、

トラック部分の全天候化（日本陸上競技連盟第4種公認競技場取得）及びインフィールド部分の人工芝生化（日本サッカー協会公認）を行い、市民はもとより県内外からの利用者が増加したところです。とりわけ、本リニューアルに伴い、トラックにおきましては、本体育施設の指定管理者と連携する中で、利用者からのニーズに対応する形で個人利用の運用を開始しました。今後も、利用者の様々なニーズを把握し、効果効率的な施設運営及び適切な施設の維持管理に努めます。

- ・市民テニスコートは、9面統一したコート仕様に改良するための検討を行います。
- ・施設改修に必要な財源として、引き続き命名権や広告などの財源確保に努めています。具体的には、メイハンスタジアム（市民野球場）、メイハンフィールド（市民陸上競技場）及びHOS名張アリーナ（市総合体育館）において、それぞれネーミングライツ（命名権）を導入し、また、2018（平成30）年度においては、新たにHOS名張アリーナ（市総合体育館）内において、広告（看板）エリアを設置して、企業・団体等が広告スペースとして活用していただくことで得た収益を、体育施設等の修繕等に関する財源とし、利用者のサービスの向上を図ることとしています。また、引き続き、同様の取組を、多くの市民が利用し広告効果が見込まれる体育施設について計画的に実施していきます。

<注釈>ネーミングライツ（命名権）契約期間	2019（平成31）年4月1日現在
○メイハンスタジアム（市民野球場）	2018（平成30）年4月1日 ～2023（令和5）年3月31日
○メイハンフィールド（市民陸上競技場）	2017（平成29）年4月1日 ～2022（令和4）年3月31日
○HOS名張アリーナ（市総合体育館）	2015（平成27）年4月1日 ～2020（令和2）年3月31日

- ・三重とこわか国体（第76回国民体育大会）に向けて、名張中央公園一帯の体育施設及び関連施設の整備はもとより、市内において競技会場となる施設整備に関しても財源確保を行いながら、早急かつ効率的に取り組んでいきます。

（2）競技スポーツの推進

①競技力の向上

競技者のレベル向上のためには、小・中・高等学校のジュニア世代からの育成が非常に重要であることから、子どもを対象としたスポーツ活動における指導者及び外部講師を確保・派遣できる体制づくりに取り組めます。また、幼少期からの競技スポーツへの興味・関心を更に高め、夢と感動を与えてくれるハイレベルの試合を観戦できる機会を創設します。

[取組内容]

- ・三重とこわか国体（第76回国民体育大会）に向けたジュニア選手育成を行い、競技力向上を目指します。
- ・トップレベル競技の試合を実際に観戦することにより、市民に勇気や感動を与えるとともに、競技力向上につながることから、トッププレイヤーなどの招へいに取り組めます。
- ・体育協会と連携し、スポーツ団体や小中学校のクラブ・部活動等に指導者を派遣するリーダーバンクの再構築に取り組めます。
- ・優秀な成績を収めた選手に対して優秀選手表彰及び激励金制度を継続します。

②環境整備

スポーツ関係団体等との連携のもと、一貫した指導体制の整備やスポーツ医・科学との連携体制の整備を図ります。また、県大会や東海大会が開催できる競技施設の整備に努め、競技力の一層の向上を図ります。

[取組内容]

- ・成長段階に応じた運動能力向上や、ケガの少ない体格形成のため、スポーツ医等の活用を図

り、総合的な視点からの研修会などを開催します。また、スポーツ団体や小中学校のクラブ・部活動に専門的な指導者を派遣するリーダーバンクの再構築に取り組みます。

- ・三重とこわか国体（第76回国民体育大会）開催に向けた施設整備及び環境整備に取り組むことはもとより、三重とこわか国体（第76回国民体育大会）開催後も、利用者が、引き続き使用可能となるよう、地域及び関係機関と連携した効率的な施設及び環境の各整備に取り組んでいきます。

（3）障害者スポーツの推進

①障害者スポーツの普及拡大

障害のある、ないを問わず、全ての市民がスポーツに親しめる機会を提供するとともに、障害者スポーツ競技を普及し、技術力の向上を目指します。

[取組内容]

- ・障害者が取り組めるスポーツ種目を積極的に推進するとともに、福祉関係機関と連携し、指導者や競技者の人材発掘に努めます。また、技術力向上のための指導者の育成に取り組みます。
- ・2021（令和3）年、三重県で開催される三重とこわか大会（第21回全国障害者スポーツ大会）に向け、開催種目、参加種目の普及啓発に取り組みます。

②環境整備

誰もが安心してスポーツに親しめる環境を整えるため、施設のユニバーサルデザインを意識し、誰でも気軽に利用できるための施設の環境整備に取り組みます。

[取組内容]

- ・既存の体育施設の屋外を含め、各施設のユニバーサルデザインに取り組み、誰もが気軽に利用できる施設整備を進めます。とりわけメイハンフィールド（市民陸上競技場）では、2017（平成29）年度実施したメインスタンド下の改修工事と合わせて施工した、男性・女

性の各トイレ及び多目的トイレの改修工事を皮切りに、2019（令和元）年度にかけて名張中央公園内の公共下水道が供用されることに合わせ、利用者が快適にトイレを利用していただけるよう配慮し、同公園一帯のトイレの改修整備を行います。

- ・障害者スポーツ指導員などのサポート体制を充実し、誰もが利用しやすい施設を目指します。

（４）学校体育・スポーツの充実

①体力向上の推進

体育の授業や部活動など、学校の教育活動を通じ、子どもに運動やスポーツの楽しさ、喜びを体験させるとともに、子どもの体力・運動能力の向上を図ることにより、生涯にわたるスポーツライフの基礎を培うため、学校体育の一層の充実に努めます。

[取組内容]

- ・子どもが日常的に運動に親しめるよう、総合型地域スポーツクラブを活用し、運動機能の充実に努めます。
- ・小中学校の体育や部活動に専門的な人材を派遣できるよう、スポーツ指導者を育成します。
- ・新体力テストを実施し、子どもの体力に係る課題を明らかにし、効果的な指導を研究します。

②学校関係体育団体との連携

中学校体育連盟などの学校関係体育団体は、子どものスポーツ活動の基盤であるため、今後も連携を密にし、情報共有を行い支援します。

[取組内容]

- ・専門的な技術の習得、技術力向上を図るための外部講師を派遣するため、学校関係団体と協議を進めます。
- ・全国大会等への選手派遣に対して支援します。

(成果指標)

指標項目	現状値 2017 (平成29)年度	目標値 2022 (令和4)年度
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合【%】	43.8	46.0

- ◆ 市民意識調査において、「週1回以上スポーツに親しんでいる」と回答した人数/市民意識調査回答者の総数)×100

指標項目	現状値 2017 (平成29)年度	目標値 2022 (令和4)年度
市民1人当たりの年間体育施設利用回数【回】	4.8	6.0

- ◆ 体育施設年間利用回数/(住民基本台帳【全市】+外国人登録者数【全市])

指標項目	現状値 2017 (平成29)年度	目標値 2022 (令和4)年度
総合型地域スポーツクラブの認定団体数【団体】	4	7

- ◆ 当該年度において認定されている団体数